「表現運動」領域における動きの内容別比較研究
—「表現」と「リズムダンス」を事例に—

土井涼子　　川口千代
（大学院文学研究科表現文化専攻）　（教育学科教授）

問題の所在と動機

平成10年12月に小学校学習指導要領が告示され，「リズムダンス」が初めて取り上げられることになった。同時に，中学校及び高等学校に於いても「現代的なリズムのダンス」として今までは「その他の領域」として位置づけられていたリズム系ダンスが内容として取り上げられることになった。その後，平成14年の完全実施に伴い（小・中学校），4年目に入り，各学校で創意工夫がなされ「表現運動」授業に「リズムダンス」が取り入れられてきている。

しかし，新しく導入された内容であり，具体的指導方法が構築されている過程であるため，現場では必ずしも「リズムダンス」の特性を十分に生かした実践がなされていないのではないかと考える。なぜなら，まず初めに根底として考える小学校学習指導要領には，「『リズムダンス』は，現代的なリズムに乗って，リズムのとり方や動き，相手との対応の仕方などを工夫して自由に踊る」と定義され，また，「小学校では，軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って弾んで踊る律動的な体験を中心に学習することが大切である。」と示されているだけである。つまり，ロックやサンバの曲をかけ，リズムや動きを自分で工夫しながらもただ自由に踊ることを強調している。

昨年，平成16年に徳島県で行われた第43回全国学校体育研究大会　第4分科会　第46回徳島県小学校体育科教育研究大会での「リズムダンス」の授業（授業収録ビデオ）に於いても残念ながらその印象を与えた。曲数は多く，時々特徴のある曲も含まれてはいたが，リズムのとり方や曲に合ったステップの仕方，友達との関わり合い方などを指導する場面はほとんどなく，ただ児童が激しく縦に揺れているだけであった。自由に踊れることは果たされており，児童も楽しいという感想は持つかもしれない。だが，それでは「リズムダンス」本来の良さが生かされていないのではないだろうか。小学校学習指導案で定義している自由に踊るとは具体的内容を教師個々人に委ねていると考えられるのである。

そこで本研究では，全国大会での「表現」と「リズムダンス」の両授業を比較し，動きの特性を調査・考察することから「リズムダンス」の現状と課題を分析し，今後の改善の方向を検討していこうと考えた。

先行研究の検討

三木・川口らの「『現代的なリズムのダンス』の特性とダンス授業における学習内容としての有用性」より，特性・有用性については明らかにされているが，三木は今後の展望として「ストリートで行われるダンスをそのまま教材として持ち込むのではなく，先述したような興味関心を窓口としながらダンスの本質的特性に触れさせていく授業展開への教材化は，これから多くの実践の中で検討されていかなければならない課題である。」と記述している。「リズムダンス」は，枠にとらわれず心と身体の弾みから心身を開放し，自由に表現できる心と身体を育てる教材ではあるが，そこを根底に据えながら曲の持つイメージを捉えて曲に合った動きを学ん

だり，各ジャンル特有のステップの仕方を学んだりすることも指導目的としては大事な要素を持っているのである。

そこで，本研究では，全国大会での「表現」と「リズムダンス」の両授業を比較し，「リズムダンス」の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

研究の目的

本研究は，現場における「リズムダンス」指導の問題点を収録ビデオより明らかにし，今後の課題を検討することを目的とする。平成16年に行われた全国学校体育研究大会での，「表現」と「リズムダンス」の両授業を比べ，相違点から「リズムダンス」の授業展開・授業構成の問題点を導き出し，そこから「リズムダンス」の今後の課題を明確にしていく。授業の比較の観点は次の３つである。

① 空間を工夫して使えているか。
（体育館中を利用して動いているか。隊形や広がりに変化はあるか。）

② 児童の動きに起伏はあるか。
（曲調や授業内容によって児童の動きに違いはあるか。特徴を捉えて動いているか。）

③ 授業目標が明確であるか。
（教授したい内容が児童の動きにどう現れているか。言葉かけや演示は適切であるか。）

研究の手続き

本研究では，全国大会の収録ビデオより，「表現」と「リズムダンス」それぞれの授業を１単元の１時間単位で比較した。本研究で用いる研究方法は次の通りである。

・クラス全体のビデオ観察
・児童のビデオ観察
・ビデオプリンターによる動きの比較

ビデオプリンターによる動きの比較では，収録ビデオから授業の場面ごとに画像を写真に興し，観点別に比較した。

対象授業の概要

比較対象となる「表現」と「リズムダンス」の授業の大会名・学校名・学年・単元名・学習内容は以下に示す通りである。

大会名称：
「第43回全国学校体育研究大会　第４分科会
第46回徳島県小学校体育科教育研究大会」
対象学校：
徳島県徳島市立大松小学校
（同体育館に於いて）
対象授業：
＜表現＞
基本の運動―表現リズム遊び
２年２組　26名
『まほうのじゅもんでへ～んしん』
【学習内容】 忍者になりきって，友だちと一緒に楽しく踊る。
＜リズムダンス＞
表現運動―リズムダンス
３年３組　30名
『のりのりダンス』
【学習内容】 サンバのリズムにのって，友だちと動きを工夫しながら踊る。

「表現」の授業の単元は「表現リズム遊び」（基本の運動）で，「表現遊び」の題材は「まほうのじゅもんでへ～んしん」であった。単元のねらいは，「いろいろな国のすきなものになりきって，友だちと仲よく楽しむことができる。」である。全５時間で構成されており，本時は３時間目にあたる。全５時間の学習活動の大枠は以下の通りである。

１時間目…オリエンテーション
２時間目…ジャングルの国
３時間目…忍者の国
４時間目…宇宙
５時間目…魔法の呪文でへ～んしん

学習内容は，＜学び方＞＜態度＞＜技能＞について以下のように提示してある。

＜学び方＞いろいろな表現リズム遊びの仕方を知り，活動を工夫することができる。

＜態度＞順番やきまりを守って，安全に気をつけながら，だれとでも仲よく表現リズム遊び

に取り組むことができる。

＜技能＞いろいろな表現リズム遊びを楽しく行うための，いろいろな運動の基礎となる動きを身に付けることができる。

本時の授業の内容は，以下の表に示す通りである。(**表1**)

表1　「表現リズム遊び」の展開

学習活動	教師のてだて
1．軽快なリズムの音楽にのって，楽しく踊る。	1．友だちと動きをまねし合ったり，手拍子をつけたりして，楽しく踊ることができるようにする。
2．忍者の特徴的な動きをイメージし，体全体を使って表現する。	2．イメージがわきやすい言葉かけをしながら，一緒に踊る。
3．表したい場面を選び，動きを続けて友だちと楽しく踊る。	3．何をしているところか，様子がよく分かるように，友だちと動くことができるようにする。
4．見せ合いをする。	4．楽しかったところや，友だちや自分の動きのよいところを見つけることができるようにする。
5．本時のまとめをする。	5．楽しかったところや友だちのよい動きなどを全員で踊って楽しめるようにする。

「リズムダンス」の授業の単元名は「のりのりダンス」であった。単元のねらいは，「リズムの特徴に合わせて，友だちとかかわって，楽しく踊ることができる。」である。全5時間で構成されており，本時は4時間目にあたる。全5時間の学習活動の大枠は以下の通りである。

1時間目…オリエンテーション
2時間目…軽快なリズムのロック
3時間目…沖縄風のリズムのロック
4時間目…陽気なリズムのサンバ
5時間目…ダンス交流会

学習内容は，＜学び方＞＜態度＞＜技能＞について以下のように提示してある。

＜学び方＞表したい動きや，リズムにのって踊るための活動を工夫することができる。

＜態度＞友だちとともに楽しんでリズムダンスに取り組み，互いのよさを認め合うことができる。

＜技能＞いろいろな音楽のリズムの特徴をとらえて，リズムにのって踊ることができる。

本時の授業の内容は，以下の表に示す通りである。(**表2**)

表2　「リズムダンス」の展開

学習活動	教師のてだて
1．メドレーで自由に踊る。	1．体をいっぱい使って踊ることができるようにする。
2．サンバのリズムにのって踊る。	2．サンバの音楽を聴かせて，リズムにのって自由に踊ることができるようにする。
3．サンバのリズムにのって，友だちと動きを工夫しながら踊る。	3．友だちと動きを工夫することができるようにする。
4．ミニ交流会をする。	4．全員で楽しんで踊ることができるようにする。

調査方法

＜ビデオ観察＞

クラス全体を撮影した収録ビデオより，限られた範囲ではあるがビデオ観察を行った。観察の観点は以下の通りである。

①なりきって踊っているか。
(「表現」は忍者になりきっているか。「リズムダンス」は各曲にのっているか。)
②授業の流れはスムーズであるか。
③教師の言葉かけによって児童の動きはどう変化をもたらすか。
④授業に効果的な教材は用いられているか。

の３点を中心に観察を行った。

＜ビデオプリンターによる画像の比較分析＞

本研究では，収録ビデオを授業の場面事に区切りビデオの画像を写真に起こした。それをデータ化し，両授業を見比べて比較・分析した。観察の観点は以下の通りである。

①空間の使い方はどうか。
②児童の動きに特徴はあるか。
③授業の目標に合った動きをしているか。
④授業に効果的な教材にはどのようなものがあるか。

結果と考察

＜ビデオ観察の結果と考察＞

調査方法に挙げた観察の各観点について結果と考察を述べていく。

①なりきれているか（曲にのれているか）については，「表現」では児童の表情がいきいきとしており，集合の号令がかかると真剣な表情をして集まっている姿が見受けられた。話し方にも「～でござる。」など忍者になりきっている言葉が飛び交っていた。一方，「リズムダンス」では楽しそうな表情を浮かべて側方倒立回転を入れて工夫したりグループで見せ方を工夫したりする姿が見られた。だが，どの曲がかかっても動きに変化は見られず，曲の特徴やイメージをつかんで踊っている児童は見受けられなかった。

②授業の流れについては，「表現」では忍者の修行として手裏剣の飛ばす練習や避ける練習，戦う為の技の練習をして最終的にはお城にさらわれたお姫様を助けに行くというストーリー性があった。忍者としての動きを何度も練習することで児童の意欲も高まっているように見えた。一方，「リズムダンス」ではウォーミングアップから発表まで曲をかけ続けてそれに合わせて踊るという流れだったのだが，終始動いている児童のバックに曲が流れているというだけで各曲の順番などに工夫は見えず，授業の流れがスムーズとは言えない状況であった。恐らく曲順は入れ替わっても変わりがないのではないかと感じた。

③教師の言葉掛けについては，「表現」では単元の初めの方に決めている変身の呪文によって忍者に入り込みやすい工夫がされていた。また，児童の発言に教師が大きなリアクションと忍者特有の言葉で返答することで児童の動きにも変化が出ていた。児童から表現の種類を導き出そうとする時も多様な表現ができるように「ここにおっきな木があるぞ！」と言って木の陰に隠れる表現をさせたり，手裏剣を避ける練習をしている児童に手裏剣で攻撃に向かったりと教師の言葉掛けや行動が児童の表現に多大な変化・影響をもたらしていた。一方，「リズムダンス」では，教師の言葉掛けは多いものの，その言葉かけが児童に直接変化・影響をもたらしているようには見えなかった。具体的には，曲をかけながら，「手足を大きく。」「おしりふって。」「手ふって。」「回って。」というような助言がなされていたが，児童はどのように手足を振ればいいのか・どのように回ればいいのかが分からず，手足の伸縮も見られないし，回転のメリハリも見られなかった。また，賞賛の言葉かけも，「○○くんの回るの良かったね。」「○○くんの班はおしりふってたね。」と褒めているが，名前を言われた児童に関しては，あの動きで良かったんだなと確認することができるが，直接名前を呼ばれなかった児童に関しては良かったと褒められた動きがどのようなものなのかを見ていないので自分の動きに取り入れることも自分の動きを確認することもできないでいた。

④授業の教材については，「表現」では変身の際に用いる呪文や集合時の合言葉を巻物で示しており，１時間目のオリエンテーションの時間にみんなで確認ができていることで毎回の変身に用いることができていた。また，場面の設定を効果的に演出するように壁にお城の堀の絵や庭の木の絵がかけられており，教師もなりきって忍者の格好をしていた。黒板にお姫様のフラッシュカードを提示したり，挑戦状の巻き物も使っていたため，児童はみんなが忍者になりきって，集合がかかってもすり足で集まったり，手裏剣を飛ばしながら集まったりしていた。授

業後の振り返りの学習カードでは『修行ノート』と名前を付けて毎時の感想を書かせることで，次回の授業への意欲も持たせていた。一方，「リズムダンス」では指導書に提示している動きの例の図を黒板にフラッシュカードとして提示していた。様々な動きが例に挙げられており，教師も「この中からどの動きをするか選んでやろうね。」と言葉かけをしていた。しかし，動きが図となっているため，図だけを見ていてはどのような動きをして良いのか，どのように発展して良いのかが分からないようであった。例示の中から選択して踊っていてもその前と動きに大差はなく，教材が効果的に用いられていないように感じられた。

＜ビデオプリンターによる画像の比較分析＞

調査方法に挙げた観察の各観点について結果と考察を述べていく。
各観点に該当する画像を任意の場面を選択し，比較する。

①空間の使い方については，以下の場面を取り上げた。

図1　「表現リズム遊び」

図2　「リズムダンス」

図3　「表現リズム遊び」

図4　「リズムダンス」

図1は，「表現リズム遊び」の手裏剣を個々に飛ばす練習をしているところである。また，図3は，手裏剣を避ける練習をした後に手裏剣を使って友だちと戦いをしている場面である。

図2は，「リズムダンス」のサンバの曲に合わせて各グループで創作をして踊っているところである。また，図4は，導入のメドレーが終わった後すぐにサンバを踊っている場面である。

まず，この４つの画像を比較した時に一番感じたことは，「表現リズム遊び」の方はどの場面かが詳しく説明しなくても理解しやすい。それに比べて，「リズムダンス」の方は，説明を加えてから画像を見ても場面の特徴や変化がないため分かりづらい。そして，空間の使い方について述べると，ぱっと見ただけではそれほど違いがあるようには見えない。だが，「表現リズム遊び」は児童自ら広がりたい方向へむけて動いており，周りで見ている研究大会の参加者にまで手裏剣を投げていた。一方，「リズムダンス」は，広がっているのは教師が「広がりなさい」と直接指示をして，手を引っ張って動かしたからであって，図４の学習指導後にはまた小さくまとまってしまっていた。また，単元が違うことで選択した場面に学習内容での共通点はないのだが，「表現リズム遊び」の方では児童が様々な方向を向いて手裏剣を投げている。それに比べて，「リズムダンス」では，終始グループや友だちと向き合って中を向いて踊っていた。

②特徴的な児童の動きについては，以下の場面を取り上げた。

図５　「表現リズム遊び」

図６　「リズムダンス」

図７　「表現リズム遊び」

図８　「リズムダンス」

図５は，「表現リズム遊び」で手裏剣を四方八方に飛ばす修行をしている場面である。図７は手裏剣を避ける修行をした後に手裏剣を投げながら避ける修行をしているところである。図６は，「リズムダンス」でグループに分かれて踊っている場面である。男子児童一人を中心に囲んだ隊形になっている。図８は，別のグループが踊っている場面である。一人の女子児童が側方倒立回転をしている。これら４つの場面にはどれも特徴のある児童の動きがある。

「表現リズム遊び」では，真剣な表情で手裏剣を投げている女児の姿があるが，手先までしっかりと伸びていて静止画であるが躍動感が窺える。また，手裏剣を避けながら自らも攻撃している男児の姿もしっかりと足を上げて跳んでおり，尚且つ相手の姿も捉えようとしている。これもまた写真から動いている様子が想像しやすい。一方，「リズムダンス」の児童の姿もまた特徴的である。1つ目のグループでは手を上に大きく伸ばす女児の姿がある。足もしっかりと曲げており，激しさが伝わる。また，側方倒立回転をダンスに取り入れるのも楽しく華やかな様子が分かる。こうやって見ると，どの児童にも特徴があり，その良さがあると思われる。しかし，ここで大切なことは大きな動きや特徴あるいきいきした動きを画像として見ることだけではない。「表現リズム遊び」の児童は忍者の模倣をして忍者になりきっている。なりきった上で忍者らしくという思いから表情が真剣となり，方向も自分で定めて精一杯投げているのである。男児も忍者になりきって手裏剣で攻撃することと防御することも考えて精一杯跳んで投げているのである。本時のめあてであった「忍者になりきって，友だちと一緒に楽しく踊ることができる。」という目標が結果として表現されている様子である。それに比べて「リズムダンス」の授業では，「サンバのリズムにのって，友だちと動きを工夫しながら踊ることができる。」というのが本時の目標であるが，児童の動きにはサンバのリズムは全くといっていい程現れていない。それは，列挙した場面だけでなく授業全体を通してサンバのリズムは教授できていないと思われる。図6の女児の動きはとても大きく，サンバにいかせる動きであると思われるが，グループの他のメンバーと動きは合っていないし，関連性も見当たらない。曲を編集して，切れる度にグループで相談する時間をとっていたが隊形の工夫だけでサンバの動きにはつながっていなかったようである。それも曲を全て編集してしまっているため，児童の相談する時間（曲と曲との空白部分）が決まっており，児童に合わせて調節できなくなっていた。また，図8のグループの動きも，側方倒立回転をしている女児以外は特徴的な動きを見せていなかった。それに，側方倒立回転をした女児もサンバの動きではないし，曲をかけて自由に踊るという提示から動きを導き出した時にどう動いて良いか分からず自分にできる動きを考えて行ったものだと思われる。上記，空間の使い方でも記述したが，「表現リズム遊び」の画像はどの画像を見ても場面が特定できるのであるが，「リズムダンス」の画像はどの場面であるか特定するのが難しいものが多い。どの曲がかけられているのかも分かりにくいのである。つまり，各曲や場面に合わせた動きが児童から見受けられないのである。

③授業の目標に合った児童の動きについては，以下の場面を取り上げた。

図9　「表現リズム遊び」

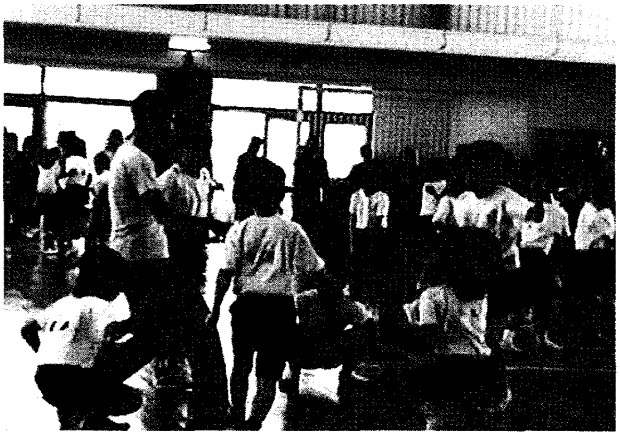

図10　「リズムダンス」

図11　「表現リズム遊び」

図12　「リズムダンス」

図９は，「表現リズム遊び」の“ひとりで”忍者の修行をしており，いろいろなところに隠れようということでこの女児は水の中に隠れている表現をしている。他にどのような表現があったのか参考までに挙げておくと，木の陰に隠れたり壁にへばりついたりという表現が見られた。図11は，手裏剣を使って敵を倒そうとしている場面でこの女児は周りで見ていた研究大会の参加者に手裏剣を向けて戦いを挑んでいた。参加者の先生方も児童の攻撃に応えていた。また，図10は「リズムダンス」でグループごとにサンバを踊っているところで教師がサンバのステップを教えようとしている場面である。図12は，グループでのサンバを終えた後に円になって全員で踊ろうと隊形を移動している場面である。

図９の女児は隠れる忍法を考えて水の中に隠れようと言う発想で表現をしていた。他の児童が木に隠れたり腹ばいになったり壁にくっついたりしている中で，この女児は他の児童の動きには気にも留めずに一生懸命表現をしていた。ここでの目標は忍者になりきって隠れる修行をすることであった。とても多様な表現が出ており，感心することが多かった。図11の女児も手裏剣で戦いを挑むという時に標的は体育館にいる人全員だったのかもしれない。他の児童に向かわずに回りの先生方に一目散に向かっていっていた。声も出して戦っていた。それに比べて「リズムダンス」の場面では，図10のサンバのスッテプを教授しようとしているところも「前後に足を動かして」という言葉かけだけで詳しくステップの踏み方を教えることがないので前後に動く真似をする児童はいてもサンバのステップにはなっていなかった。この図の場面でも，教師は前後のリズムをしているのだが，児童の動きに変化はなく，立って座ってを繰り返しているだけであった。図12の円への隊形移動は，他の児童の動きも見ながら踊ることができるので授業を通して一度も隊形移動がなかっただけに良い工夫の仕方だと思われる。しかし，この後円になってからも「自由に踊りましょう」という指導は変わらないので，児童の動きに変化がみられなかったことがとても残念であった。列を作ってそこから円になるという隊形移動をしているのであればサンバ隊としてパレードのように練り歩くこともできるし，円になってみんなを見渡せる場で，良い動きをしている児童を取り上げたりみんなで順番に他の児童の動きを真似て踊ったりしても良かったのではないかと思う。

④授業の効果的な教材については，以下の場面を取り上げた。

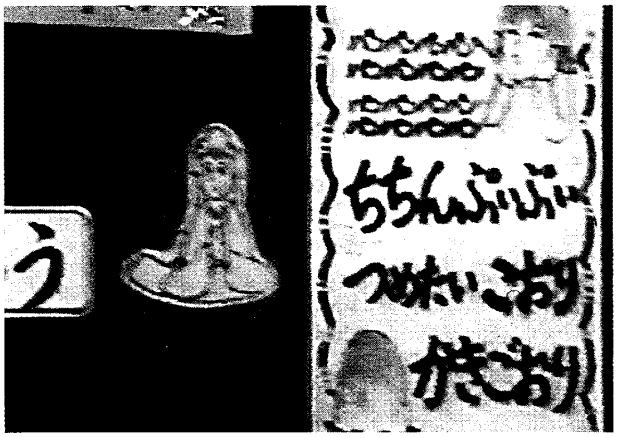

図13　「表現リズム遊び」（変身の呪文）

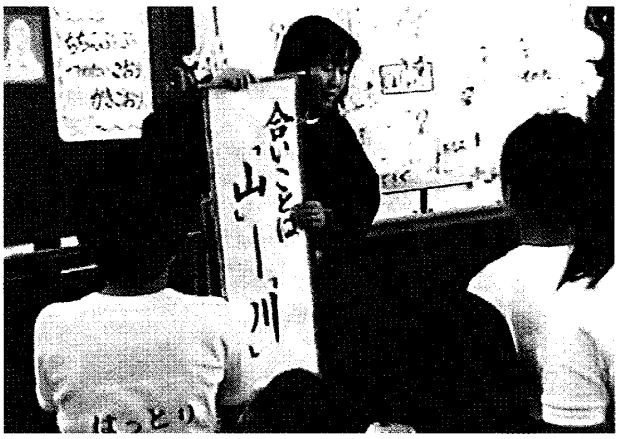

図14　「表現リズム遊び」（集合時の合言葉）

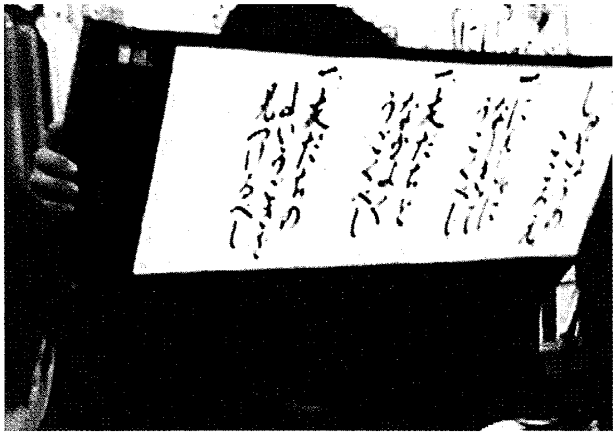

図15　「表現リズム遊び」（巻き物）

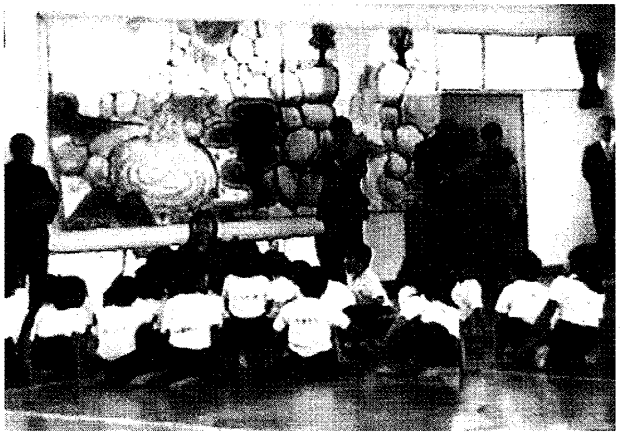

図16　「表現リズム遊び」（後方：堀の絵）

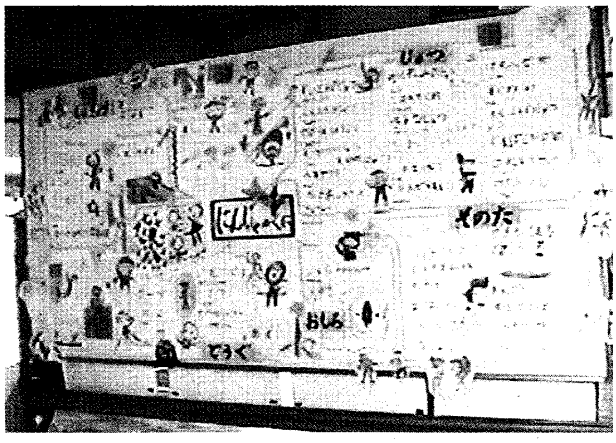

図17　「表現リズム遊び」（まとめ）

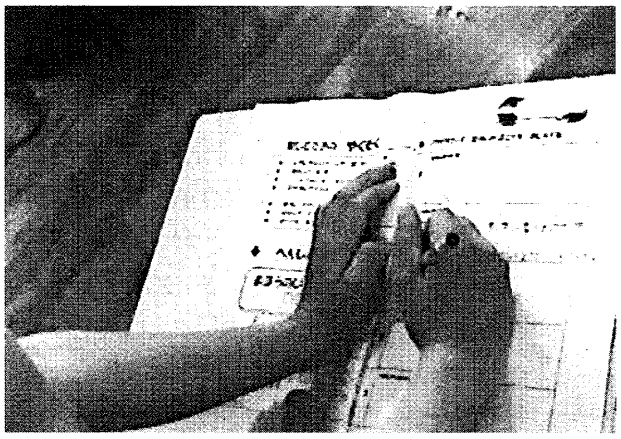

図18　「表現リズム遊び」（修行ノート）

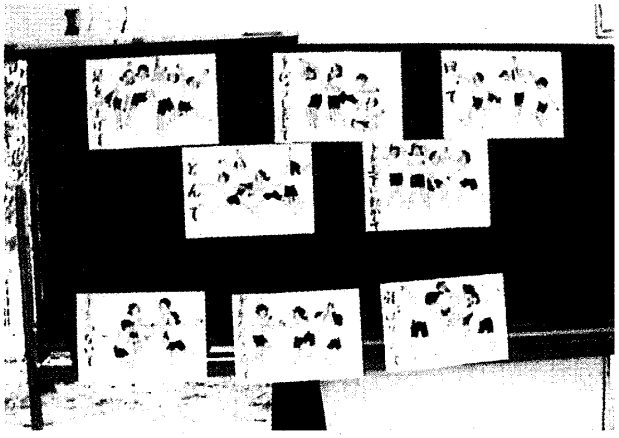

図19　「リズムダンス」（動きの例）

図20　「リズムダンス」（めあて）

図13～図18は「表現リズム遊び」の教材として用いられたものの画像である。図13は，単元を通して変身する時にみんなで唱える呪文である。図14は，集合の際に使う合言葉である。教師が『山』と声を出せば児童は『川』と言いながら集まってくるように決まっている。図15は，本時の忍者の模倣での授業のめあてを巻き物で『修行の心得』として提示している場面である。「一つ，～べし。」という言い回しで忍者になりきった状態でめあてを認識することができる工夫もされている。図16は，認知学習場面で合言葉をかけて集まっている場面である。後ろのお城の堀の絵に注目したい。この左側にも同じ大きさの絵がかけられている。お城に行くイメージを絵からも取り入れることで児童の意欲も掻き立てるし，より濃い表現につながっていくであろう。図17は本時（忍者の国）のまとめの表である。「修行」「術」「道具」「お城」「その他」に分かれており，授業で学んだ内容が一目瞭然である。図18は，授業の最後に書いている感想を書くノートである。『修行ノート』という名前がつけられていて単元の各授業でその授業に合ったページを開いて記すようになっている。授業の目標も書いてあり，児童自らが考えて取り組めるようになっている。図19・20は，「リズムダンス」の教材の画像である。どちらも動きの例として挙げられており，図20にはめあても提示されている。いろいろな動きの例があり，友だちとの関わりかたも参考になる。

どちらの授業も全国研究大会での授業だけあって教材や場の工夫にもとても時間をかけらていることが分かる。授業に合った教材を選んでタイミングにも注意して提示することはとても大切なことである。ここで一つ注目しておきたいのは，「リズムダンス」の授業の動きの例についてである。この例を使って踊っている児童も中にはいたであろうが，教師の提示の仕方が曖昧であったように思う。「グループでこの中から１つすること決めてね。」と言って提示したのだが，相談する時間もあまりないまま運動学習場面へと続いたため児童がその動きをグループでどのように取り入れて良いか困っているように見えた。また，やはり動きを絵で表しているためそれを実際に動いて現してみようとすると案外難しいものである。一度教師がはっきりとした演示でこれはこういう動きですよという風に児童に見せることができたら違っていたように思う。また，用いる曲についても大切な教材であるが，「リズムを感じて踊ろう」「リズムにのって」という指導にも関わらず，全ての曲で児童の動きに起伏や変化が見られなかった。速さやリズムも違う数曲を選んで提示しているのにもったいないと感じた。

まとめ

本研究では，全国学校体育研究大会での公開授業を研究対象として比較・分析を行った。対象とした授業は１つの研究大会だけであったが全国に公開する授業でこの結果だったことは非

常に驚きであった。ビデオ観察とビデオプリンターでの動きの分析によって児童の動きから分かったことは，「表現リズム遊び」では，忍者という題材を生かした模倣表現が高低差や伸び縮み，緩急や遅速のメリハリがついた全身を使った動きになっていた。楽しい表情や真剣な表情など，忍者になりきった表情を場面ごとに見せた。体育館の隅から隅まで目一杯に広がったり合言葉で一気にぐっと寄ったりという空間だけを見ても児童が精一杯動き回っている姿が窺えた。一方，「リズムダンス」では，ただ曲にのって動いているという印象であった。全員が殆んどその場から動かずに，手足を伸ばしたり，高低差をつけて踊ったりする様子も見られなかった。

教師の指導の展開について分かったことは，「表現リズム遊び」では用意周到で工夫された教材や場の設定と教師の豊かな言葉かけや直接的な動きによって児童のイメージや動きを引き出し，そのものになりきった忍者の国を作り出していた。これに対し，「リズムダンス」では数曲のメドレーをしていてもその曲にあった言葉かけや動きの指導がないため，どの曲がかかっても単調で同じ動きの連続であった。

以上の結果から，「リズムダンス」指導では多様な動きの引き出し方と授業展開の困難さが問題点として挙げられる。「リズムダンス」はただ楽しく自由に踊りなさいという指導では教授したい内容が薄いように思う。違いのある数曲を選んだからにはその違いが分かるように指導するべきであるし，違いを理解させた上で踊ることが必要である。また，初めから自由にといっても「表現運動」やダンスをしたことのない児童にとってはどのよう動きをすれば良いのか分からないものである。曲に合った動きというのはこういうものですよと教師が提示して一緒に踊ることも大切であるし，時には「手足はもっと伸ばそうね」とか「この動きはもっと低く小さくなるんだよ」とか動きに変化がつくように随時言葉かけをしていくことが必要ではないかと考える。

本研究では，「リズムダンス」指導の問題点を挙げることを目的とした。今後はよりよい「リズムダンス」指導にはどのような授業展開が望ましいかという発展的な指導法の研究にも幅を広げていきたい。また，今後現場に於いても数多くの授業実践を踏まえた上で「リズムダンス」の良さを生かした授業展開がなされていくことを切に願う。

引用・参考文献

・「小学校学習指導要領解説　体育編」文部省（1999，5）東山書房
・「体育科学習指導案集」徳島県徳島市大松小学校（2004，11，19）
第43回全国学校体育研究大会　第4分科会　第46回徳島県小学校体育科教育研究大会
・「『現代的なリズムのダンス』の特性とダンス授業における学習内容としての有用性」三木綾子・川口千代・頭川昭子・村田芳子（2003，5）
日本体育学会茨城支部「いばらき健康・スポーツ科学」第20号
・「体育科教育学入門」高橋健夫・岡出美則・岩田靖（2003，9）大修館書店
・「小学校体育実践指導全集5　表現運動」川口千代・吉田千栄子他（1990，4）日本教育図書センター
・「舞踊の比較研究―「舞楽」を中心として―」松本千代栄・相場了・川口千代
・「体育授業を観察評価する」高橋健夫（2003，10）明和出版
・「ダンスの教育学　第2巻　表現運動の学習」相場了・山田敦子・栗原知子（1992，6）徳間書店
・「ダンスの教育学　第6巻　全国の研究・実践事例」川口千代・高野章子・本田郁子編（1992，2）徳間書店
・「個の力を生かし伸ばす表現運動の指導―個々の動きから豊かなグループ表現へ―千葉大学長期研究生　研究報告書」桑原直子（2002，4）
・「表現運動・ダンスに関わる実践の現状と課題」京都女子大学発達教育学部教授　川口千代（2006，3）